

都市再生整備計画(第5回変更)

たておか 楯岡地区(第2期)

山形県 村山市

令和6年1月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	山形県	市町村名	村山市	地区名	楯岡地区(第2期)	面積	128 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度				

<p>目標</p> <p>県立高校跡地利活用を核とした市街地の活性化と防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇楯岡高校跡地を活かした交流・賑わいのあるまち ◇災害対応し安全で快適に暮らせる楯岡
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>平成28年3月をもって閉校となった、県立楯岡高校の跡地は楯岡地区市街地の中心に位置し、JR村山駅から徒歩7分という好立地にある。閉校により職員生徒と共に市街地の賑わい活気は失われた。また県による跡地の活用は示されなかった。近年の災害リスクの整理により、楯岡地区は東側が土砂災害危険区域に指定され、西側が最上川の浸水想定区域となっている。災害時の拠点となる市庁舎、消防署、既存の指定避難所もその災害リスクのある区域に含まれる。しかし楯高跡地およびその周辺の市街地はそれらの区域に指定されておらず安全性が高い地区であると言える。市では高校跡地の利活用について具体的に計画している。跡地の再整備の中で市の災害対応拠点、指定避難所として再整備を行い、あわせて避難所アクセスとなる道路整備を行うことにより市街地及び市全体の安全、安心の向上を図る。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>村山市は山形盆地の北部に位置する。中央に最上川が南から北に流れ、東に奥羽山脈、西に出羽丘陵がそびえる。国道13号、JR奥羽本線が市の東部を縦断し、東北中央自動車道が市の中央を南北に整備中である。都市計画区域の中心である楯岡地区は市の南東部にあり、江戸時代より羽州街道の宿場町として、明治以降は北村山郡役所が置かれ政治、経済の中心として発展してきた。しかし、戦後の高度経済成長と共に価値観の多様化や経済的豊かさも相まって核家族化、モータリゼーションが到来した。近隣市町村で郊外複合型大型商業施設の出店とそれに付随した安価な住宅団地の造成が相次いだことから商業や居住地としての魅力が低下し、人口流出の歯止めが利かない状況にある。市内でも最も雪の少ない楯岡地区でも例年1mに迫る積雪があり、数年に一回、1mを超える積雪となる。人口は平成12年の29,586人が平成27年の24,684人に減少している。高齢化率は同じ年度の比較で27.7%が35.0%に上昇している。</p> <p>楯岡地区は羽州街道(旧国道13号)沿いには商店街が形成され、金融機関の本支店が立地している。旧来からの住宅地は商店街の東側に広がっている。以前は商店街の近辺に市役所をはじめとする行政機関が立地していたが、用地確保の問題から土地取得が容易な郊外部へ転出している。楯岡地区の人口は平成12年10,355人が平成27年に10,202人と微減で推移している。地区東部は出羽丘陵から流れる河川の扇状地であり、広く土砂災害警戒区域が設定されている。また地区西部は最上川の想定最大洪水の浸水エリアに含まれている。安全度の高い市街地は楯岡地区の中心に存在するが、旧来からの住宅地には大型車の通行可能な幹線となる道路が無く、小学生の通学を始めとする歩行者、自転車の安全性や有事における交通確実性が確保できていない。</p> <p>平成28年3月に市街地の中心にあった県立楯岡高校が閉校となった。村山市では利活用について閉校前の平成27年8月策定の第5次村山市総合計画の重要課題に位置付け、翌年から公募による市民・まちづくり協議会・市議会・県の協力により「旧楯岡高校跡地利活用検討市民会議」を立ち上げ、平成29年4月まで5回の会議を開催し6つの提言をいただいた。さらに市民会議の6つの提言について検討を重ねた上で、公募による利活用希望者、学識経験者、有識者、県の協力により「楯岡高校跡地利活用ワーキングチーム」を立ち上げ、4回の会議と利活用希望者の提案を踏まえて選定した類似施設の現地視察を行い、より具体的な利活用のあり方の議論し、楯岡高校跡地利活用の全体方針や導入する機能等について基本構想として方向性を定めた。</p>
<p>課題</p> <p>村山市全体としては、雇用機会や労働力人口の流失にともない、居住人口の減少や周辺都市への生活サービス利用依存等が問題となっている。</p> <p>中心部の楯岡地区における喫緊の課題として下記の3点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年3月に市街地の中心にあった県立楯岡高校が閉校となった。36,000㎡という広大な土地だけでなく、昼間人口にして800人を喪失し、物理的にも、心理的にも大きな空地、いわゆる空き家となり、にぎわいが失われている。 2 近年、土砂災害危険区域や浸水想定区域の調査が進み、災害のリスクが整理された。市庁舎や消防署、既存の指定避難所が多少なりとも災害リスクのある場所に指定されている。しかし楯高跡地は市街地の中心でありながらそれら区域の指定を受けていない。 3 楯岡高校北側に広がる、旧来からの市街地は、狭隘道路が多い。徒歩利便性が高いが、道路基盤が脆弱であり、災害時の延焼の危険性や道路閉塞による避難行動や緊急車両の通行に支障をきたす状況にある。市街地奥に小学校があり、狭隘道路が通学路として指定されている。また冬期の除雪作業にも支障をきたしている。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【総合計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年に策定された第5次村山市総合計画では基本施策の中に「中心市街地の快適な生活環境づくり」を掲げており、平成28年に閉校となる楯岡高校用地に賑わいづくりのため、文教施設等の誘致を目指すことを方針としていた。また具体的施策のなかで一つ目に前述の楯岡高校跡地の活用を含めた「JR村山駅から東へ延びる道の賑わいづくり」、二つ目として「楯岡南部を生活エリアに設定」のなかで安全な通学路、緊急時の避難経路として楯岡小学校に向かう街路の計画的整備を挙げている。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・中心市街地は、福岡地区が北村山郡の中心であったことから、宿場町をもとに古くから商店街が形成され、金融機関の本支店、商業施設、診療所を有し、JR村山駅を軸に公共交通機能が整備されており、それら機能の維持誘導を立地適正化計画の方針としている。また平成21年度に完成した複合施設「飯葉プラザ」は図書館機能を軸として子育て機能、コミュニティ交流機能を備えた施設となっており、中心市街地の賑わいの一部を担っている。
- ・都市機能誘導区域と隣接する国道13号以西のエリアはJR村山駅から徒歩圏であり、近く開通が見込まれる東北中央道のICへの国道からのアクセス道路が通る。その利便性を生かし新たな商業施設、企業の立地を促進する。
- ・郊外部、山間部は移動手段の主役が自動車であるものの、自動車利用ができない市民のため路線バス、市営バス、乗り合いタクシーで移動手段を確保しており、そのサービス水準を維持していく。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

市街地の中心に位置する福岡高校の閉校により、昼間人口である生徒、教職員700名が一挙にまちなかから失われた賑わいを喪失したことは、福岡地区へ大きな衝撃となっている。その市街地の賑わいの再生のため、市では「福岡高校跡地利活用基本構想」を策定し、既存の校舎を生かして、福岡高校跡地をコミュニティ、コワーキング、オフィス、ゲストハウス、フィットネス、子供の遊び場、スポーツ機能などの多様な機能を有す複合施設として整備、利活用を計画している。また「福岡高校跡地利活用」には多様な利用者が集うため、地域生活基盤施設として整備される緑地広場は対外的に解放された、利用者と市民をつなぐスペースとなる。コワーキング、オフィス機能による新たな起業の創出、ゲストハウス、子供の遊び場、スポーツ機能等による対外的なイベントが開催により、周辺の商店街への波及効果が見込まれる。ほかの都市機能誘導施設である鉄道バスの結節点「村山駅」、徒歩圏内にある「商店街」、図書館を含む総合文化施設「飯葉プラザ」との有機的な結びつきにより、中心市街地、都市機能誘導区域の活性化、賑わいの再生の象徴としたいと考えている。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

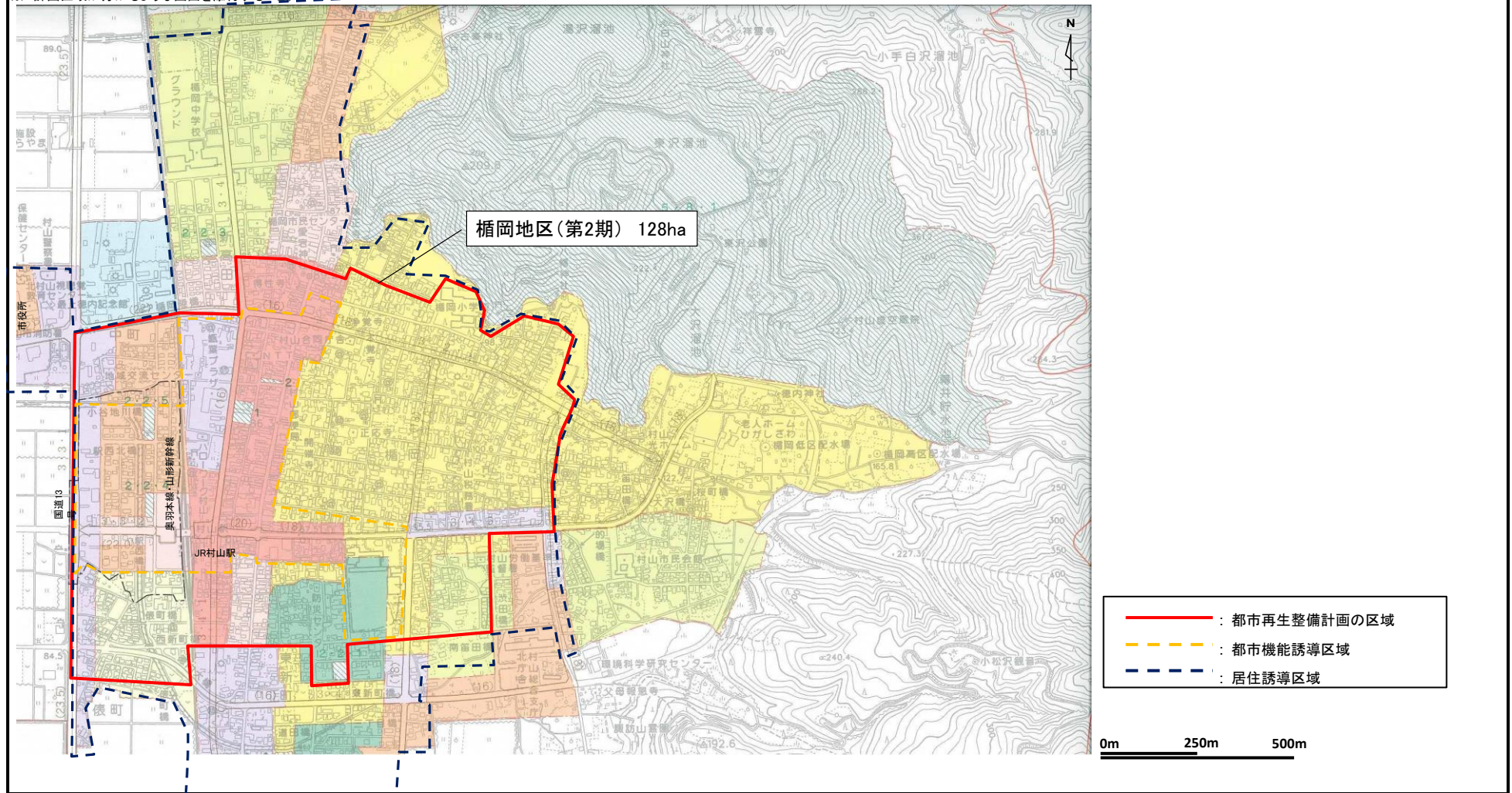
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
福岡高校跡地利活用イベント開催日数	日／年	福岡高校跡地を活用した対外的な住民参加型イベントの年間開催日数	福岡高校跡地を活かした交流・賑わいづくりの達成状況を図る指標	0	R1	15	R6
指定避難所までのアクセス平均時間	分	福岡地区住民の指定避難所までの平均アクセス時間	福岡高校跡地の利活用で防災拠点としての機能を持たせ、新たに指定避難所とする。その効果を客観的にあらわすため指定避難所までのアクセス時間を指標とした。	17.7	R1	12.8	R6
歩行者・自転車通行量(平日)	人／日	中心市街地における歩行者・自転車通行量(平日)	利活用を行う「福岡高校跡地」の徒歩圏内にある「村山駅」と図書館を含む複合文化施設「飯葉プラザ」との相互利用、相乗効果を図る指標とした。	814	R1	814	R6

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【楯岡高校跡地活用によるにぎわいの創出】 校舎利活用で創出されるコミュニティ、コワーキング、オフィス、ゲストハウス、フィットネスの多様な機能、グラウンド、体育館、緑地で創出される子どもの遊び場、スポーツ機能により失われたにぎわいを市街地の中に取り戻す ・校舎利活用のための空き家対策総合支援事業により内部改修を行い、その校舎外構の一部分を緑地広場として整備する。緑地広場は子供の遊び場や建物との一体利用、イベント開催により賑わいを創出する。</p>	<p>(基幹)地域生活基盤施設:緑地広場 (関連)楯岡高校跡地活用関連事業 (関連)道路:(都)村山駅東沢線(県事業)</p>
<p>【楯岡高校跡地に防災拠点としての機能を整備】 市庁舎や消防署、既存の指定避難所が災害リスクを有する場所であるため、市街地の中心に位置し、災害リスクの少ない楯高跡地に防災拠点としての機能を持たせる ・地域防災施設として既存校舎、体育施設に指定避難所としての機能を整備し、備蓄倉庫、マンホールトイレを整備する。</p>	<p>(基幹)地域生活基盤施設:地域防災施設(備蓄倉庫) (基幹)地域生活基盤施設:地域防災施設(MHTトイレ)</p>
<p>【地区内の防災安全性の向上】 狭い路地がほとんどを占める旧来からの市街地の道路整備により、地区内住民の指定避難所へのアクセス向上と市街地の奥に立地する楯岡小学校の通学路の安全性を図る ・市道改良事業、街路事業</p>	<p>(基幹)街路:(都)楯岡東根温泉線 (基幹)道路:市道晦日町南楯線 (基幹)道路:市道中楯線 (基幹)道路:市道灰塚西浦線</p>
<p>【都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設】 鉄道バスの結節点「村山駅」、図書館を含む総合文化施設「飯葉プラザ」との有機的な結びつきにより、中心市街地、都市機能誘導区域の活性化、賑わいの再生を図る。 ・市道改良事業</p>	<p>(基幹)道路:市道五日町太神宮南線</p>
<p>その他</p>	

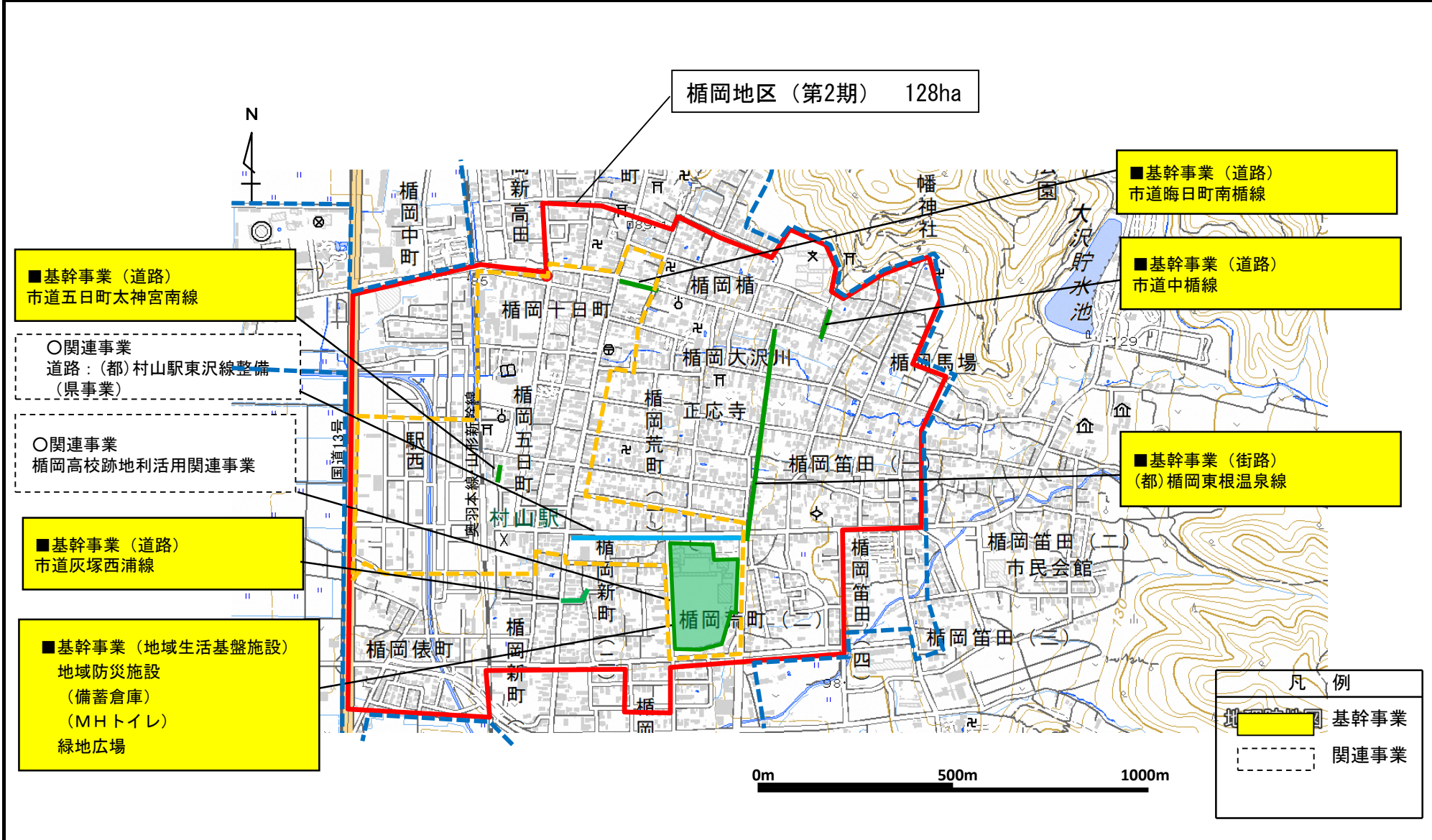
楯岡地区(第2期)(山形県村山市)	面積 128 ha	区域 楯岡新町一丁目の一部、二丁目、三丁目の一部、楯岡五日町、楯岡十日町、楯岡晦日町、楯岡楯、楯岡馬場の一部、楯岡大沢川、楯岡笛田一丁目の一部、楯岡荒町一丁目、二丁目の一部、駅西
-------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



楯岡地区(第2期)(山形県村山市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	県立高校跡地利用を核とした市街地の活性化と防災力の向上 ◇楯岡高校跡地を活かした交流・賑わいのあるまち ◇災害に対応し安全で快適に暮らせる楯岡	代表的な指標	楯岡高校跡地利用イベント開催日数 (日/年)	0	(R1年度)	→	15	(R6年度)
			指定避難所までのアクセス平均時間 (分)	17.7	(R1年度)	→	12.8	(R6年度)
			歩行者・自転車通行量(平日) (人/日)	814	(R1年度)	→	814	(R6年度)

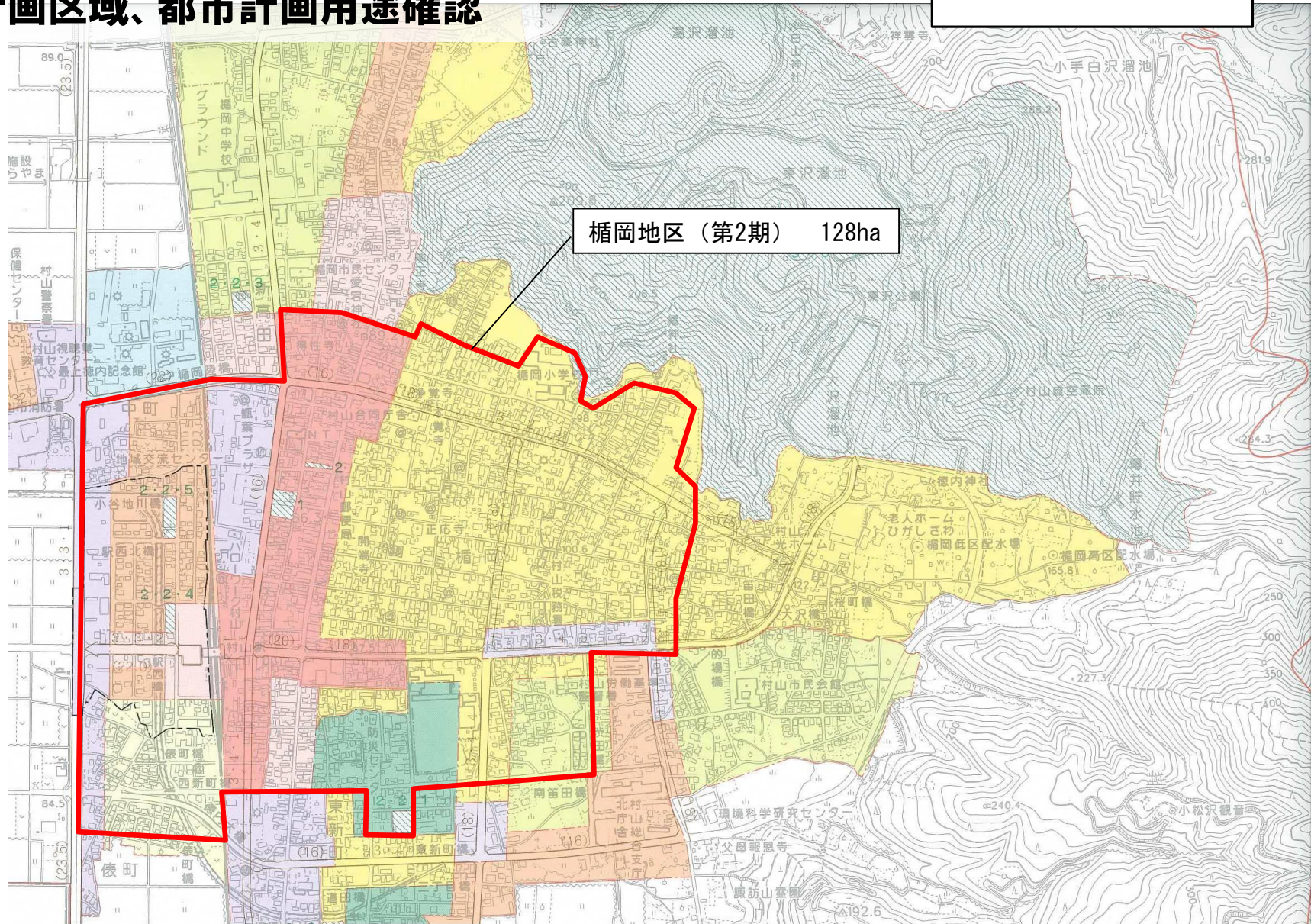


楯岡地区(第2期)都市構造再編集中支援事業(山形県村山市)

R6.1時点

都市計画区域、都市計画用途確認




— : 都市再生整備計画の区域



楯岡地区(第2期)都市構造再編集中支援事業(山形県村山市)

R6.1時点

都市機能誘導区域、居住誘導区域確認

	: 都市再生整備計画の区域
	: 都市機能誘導区域
	: 居住誘導区域

